

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2023

国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

11月中旬~12月中旬

紅葉

--- 季節のおすすめ散策コース (ゆっくり歩いて1時間)
- - - おてがるコース (ゆっくり歩いて30分)



いきもの



オオムラサキ(タテハチョウ科)

冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。



ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)

成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中突起は3対です。



ノスリ(タカ科)

小型のタカの仲間。秋から冬にかけての渡りの時期によく姿を見かけます。



ルリビタキ(ヒタキ科)

青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。



ジョウビタキ(ヒタキ科)

橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。



リンドウ(リンドウ科)

根は生薬として利用されてきましたが、胆汁のようにものすごく苦いことから「竜の胆汁」で「竜胆(りんとん)」という名前になったそうです。



カマツカ(実)(バラ科)

カマの柄にできるほど材が強いことからこの名がついたそう。別名ウシコロシとも。



ヤブコウジ(実)(サクラソウ科)

別名「十両」。「千両」や「万両」と並んで、縁起物としてお正月飾りによく使われます。



ススキ(イネ科)

秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。



ムラサキシキブ(実)(シソ科)

紫色の果実が特徴的な木。低地~山地の林縁部などに生えます。



コバノガマズミ(実)(ガマズミ科)

春に小さな白い花が咲きます。よく似たミヤマガマズミよりも葉っぱが細く、さわるとふわふわした手触りです。



小野新池(カモなどの水鳥)



干し柿と茅葺き屋根(白拍子の家)



アキグミ(実)(グミ科)

秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。



リュウノウギク(キク科)

日当たりのいい丘陵地や山地に生育する白いキク。葉を揉むと樟脳のような香りがします。



イロハモミジ(ムクロジ科)

秋の紅葉の象徴的な植物。本種から多くの園芸品種が作られ、流通しています。

